

年末に惹起したスマトラ島沖の巨大地震によるインド洋大津波の被害は我々の想像を遙かに超えるものとなった。ある調査結果に因れば、津波の高さは10階建てのビルの高さに達する程であったという。犠牲者も詳しい調査が進めば更に増えそうだ。

実はニュースを見ながら、小生が実際に体験した北海道南西沖地震による奥尻島災害派遣を思い出している。

平成5年7月12日、部隊実習の為に倶知安部隊に着隊した防衛大学校の学生の歓迎会を終えて、後は若いものだけでやれと言い残して官舎に帰宅した。テレビの前にドカッと座った午後10時17分、マグニチュード7.8という日本海側の観測史上最大の地震が惹起した。官舎内の異状の有無を確認し、駐屯地当直司令の重迫撃砲中隊長に電話して、異常の有無を調査するよう命じてから、登庁の為に着替えた。これが1週間にわたる小生の奥尻島災害派遣の発端である。勿論、この時には、奥尻島は倶知安連隊の隊区ではないので、奥尻に派遣されるなど思いもしなかったけれど。

飲酒しているので止むを得ず、自転車で高砂台の駐屯地に向かった。これも言うならば飲酒運転に他ならないのだが、非常時故に許して頂けるだろう(?)。

倶知安連隊の隊区は、後志支庁の大半である。本州の小さな県ぐ阪神淡路大震災の時もそうだったが、今回も単身赴任中であり、留守宅の家内には電話することなく出てしまった。後でちょっとばかり小言を言われたけれども・・・。

さて、登庁してみて、テレビが続々と報ずる奥尻や島牧、泊、岩内等々の被害が相当なものになることが予想されたので、すぐさま情報収集の為に所要の部隊を夫々の役場に派遣することにして非常呼集を掛けた。集まった隊員に逐次に指示して夫々の役場等に向かわせた。勿論、知事代理として小生に災害派遣を要請する権限を有する後志支庁にも連絡監部を派遣した。そうこうして、情報収集の態勢を構築しつつ、斯かる状況では災害派遣要請は必至であり、であるならば、早めに全隊員を呼集すべきであろうとの判断で、丑三つ時かその付近に第3種非常呼集(全員呼集)を掛けた。

NHK テレビは盛んに青苗地区の火災状況を放映する。隊区内の状況も逐次に判明し始める。隊区内の被害もさる事ながら、矢張り奥尻島の被害が特に甚大である。師団として、函館の部隊を空路奥尻に派遣したいと努力したようだが如何せん気象条件がそれを許さなかった。後になって聞いてみれば、辛うじて倶知安からだったら可能だとの偵察結果に基づいて、我等に白羽の矢が立った。朝早くにヘリを寄越すと言う。

レンジャー隊員を主体とする第一次空輸部隊を編成して出発させた。確か20名程度だった？師団長から『山下おまえも早く行った方が良いぞ』との指示もあり、庶務監部他数名と、機上の人となり空路奥尻に向かった。

一週間後には、奥尻島を隊区とする函館連隊と部隊交代して任務終了した。色々なトピックスはあるが、小生が感じた教訓を列記するに止めたい。

① 日頃からの自治体との連携の重要性

奥尻役場が何処にあり、誰が町長かも全く知らずに地図を便りに急行した。隊区外をというのは困ったものだ。日頃からの人間関係等が非常時には特に重要だ。

② 津波の怖さの実感！

その1：海岸道沿いの電柱に何か黒い物がぶら下がっている。それは何と昆布であった。汀線からの高さは10mはあったのではないだろうか。

その2：新築の立派な家が土台部分から切り離されて波打ち際に引きずられている。

その3：船が何故こんな高い所にあるのだろうか。

その4：谷の沢には津波が駆け上がったのであろうか、その痕跡がありありだ。3

0 m位の高さと言われた。

この巨大津波は、奥尻島周辺海底の特異性によるものと考えられる。

- ③ 災害派遣部隊の指揮所を役場内収入役の部屋に設定
町との調整も容易であり、状況把握も容易、且つ自衛隊の PR にも絶好の場所
- ④ 分断孤立集落への対処
ヘリ有功、海上からのアクセスも考慮。部隊の当初からの配置、ある部隊は申し訳なかったが、墓に宿営
- ⑤ 能力の範囲内でやれることは全て対処
真夜中でも要望あれば隊員をたたき起こして荷役作業の実施等
青苗地区では、隊員が消火活動を実施
- ⑥ 大型ヘリによる車両空輸でやっとな機動的対応可能、自己完結完整
- ⑥ 家族の思い出になりそうな物は確実に収集
- ⑦ 海岸捜索時の津波警戒態勢と緊急措置
- ⑧ 小生はテレビカメラを常に意識して、大臣・要人の側に侍立(やり過ぎた?)
お陰で、家内や鹿児島両親も安心した?勿論、それが狙いではないが…。
- ⑨ その後周辺海域の魚介類が極端に売れなくなったと言われた。謂われ無き流言があるものらしい。

参考までに

- 津波は「tsunami」と表される世界共通語である。
- 世界史上最大の津波高さは、500 m (1958年7月アラスカのリツヤ湾)
- 世界史上、津波による最悪の犠牲者数は、1883年ジャバ島クラカトウ火山爆発による津波で、死者36,000人。
今回のインド洋津波による犠牲者はこれを遥かに超えるだろう。
- 日本最大の津波高さは85 m (1771年4月24日・明和大津波とよばれる八重山地震津波であり、石垣島で記録。死者12,000人)。
- 日本・本州最大の津波高さは、38.2 m (1896年の明治三陸地震津波、岩手県綾里村)で、日本最悪の犠牲者数も明治三陸地震津波で死者22,066人。

(参考：各種 HP)

(了)